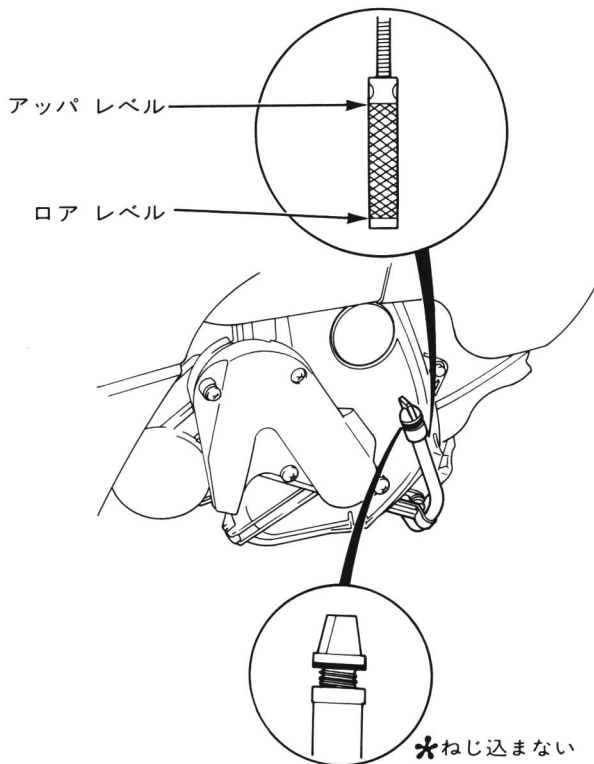


エンジン調整

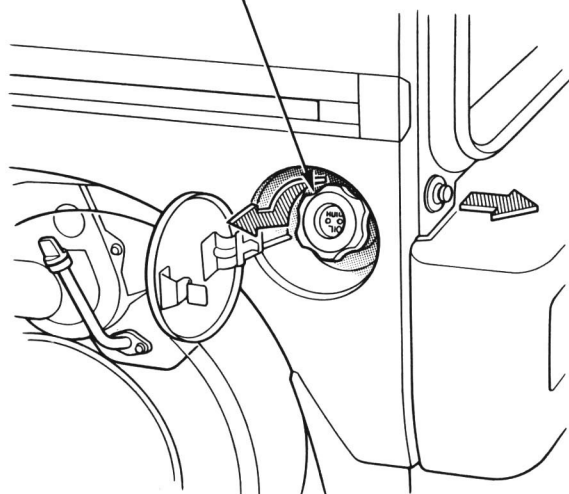
エンジン オイル量の点検、交換

〈点検〉

- ① エンジンを始動しない状態で水平の場所で行う。
- ② レベル ゲージを抜いて量、汚れを点検する。
一度ウエスなどでふいた後、ゲージを差し込み、点検する。
- ✳ゲージは差し込むだけで、ねじ込まないこと。
- ③ ロア レベルの時は、アッパ レベルまで補充する。



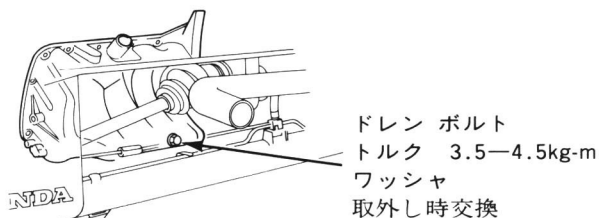
オイル フィラ キャップ



〈交換〉

- ① エンジンを暖機する。暖機後エンジンを停止する。
- ② ドレン ボルトをゆるめ、エンジン オイルを抜く。
✳フィラ キャップを外せば早く抜ける。

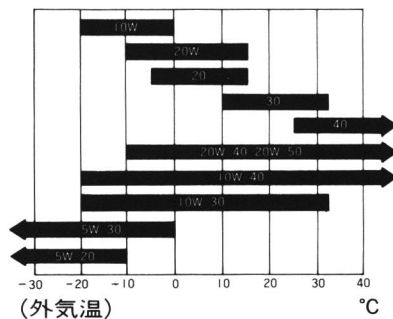
注意 エンジンが熱いうちにドレン ボルトをゆるめると、油温が高く火傷しやすいので注意する。



- ③ 新しいワッシャを取付けドレン ボルトを締付け、推奨オイルを入れる。
- 注意** 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質のオイルを使用しないこと。
変質して故障の原因となることがある。

| | |
|-------|---|
| 推奨オイル | ホンダ純正オイルウルトラU(4サイクル用API SE級)10W-30、ホンダ純正オイル ウルトラGX(4サイクル四輪車用、または、API SE以上のエンジン オイル) |
| 規 定 量 | 3.0ℓ (エンジン分解整備時) 2.7ℓ (オイル フィルタと同時交換) 2.5ℓ (交換時) |
| 交換時期 | 10,000kmごとまたは6か月ごとのどちらか早い方 |

気温に応じた程度のもを下表にもとずき次回のオイル交換までを考慮して使用する。



- 次の条件ではオイルの劣化が早まるので、早目に交換する。
 - ・未舗装路での頻繁な走行
 - ・寒冷地での使用
 - ・アイドリング状態での頻繁な使用
 - ・短距離走行の繰り返し
 - ・けん引車としての使用